

# 貸借対照表

(2021年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>119,598</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>23,789</b>
現金及び預金	16,983	買掛金	6,597
売掛金	36,182	短期借入金	10,000
有価証券	3,399	未払金	4,560
商品及び製品	15,281	未払費用	440
仕掛品	6,291	未払法人税等	303
原材料及び貯蔵品	8,037	賞与引当金	1,484
短期貸付金	29,800	返品調整引当金	23
その他	3,659	その他	380
貸倒引当金	△37		
<b>固 定 資 産</b>	<b>37,029</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>12,417</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>7,213</b>	長期借入金	10,000
建物	5,596	預り保証金	8
構築物	123	長期未払金	3
機械・装置	90	繰延税金負債	2,405
車両運搬具	1		
工具器具備品	892	<b>負 債 合 計</b>	<b>36,207</b>
土地	343	<b>純 資 産 の 部</b>	
建設仮勘定	166	<b>株 主 資 本</b>	<b>113,848</b>
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>3,080</b>	資本金	4,317
ソフトウェア	85	資本剰余金	949
その他	2,995	資本準備金	949
<b>投資その他の資産</b>	<b>26,734</b>	利益剰余金	108,581
投資有価証券	22,870	利益準備金	905
関係会社株式	2,228	その他利益剰余金	107,675
長期前払費用	226	固定資産圧縮積立金	2,291
敷金・保証金	484	別途積立金	75,371
前払年金費用	888	繰越利益剰余金	30,013
その他	62	評価・換算差額等	6,572
貸倒引当金	△25	その他有価証券評価差額金	6,572
<b>資 産 合 計</b>	<b>156,628</b>	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>120,420</b>
		<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>156,628</b>

## 損 益 計 算 書

(自 2020年4月1日)  
(至 2021年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		89,674
売 上 原 価		44,922
売 上 総 利 益		44,751
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		41,190
営 業 利 益		3,561
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	787	
為 替 差 益	130	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	159	1,077
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	54	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	37	92
経 常 利 益		4,546
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	367	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	488	
債 務 免 除 益	1,073	1,929
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 売 却 損	9	9
税 引 前 当 期 純 利 益		6,466
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		1,206
法 人 税 等 調 整 額		445
当 期 純 利 益		4,814

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 関係会社株式 …………… 移動平均法による原価法
- ② 親会社株式 …………… 総額法  
(「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会実務対応報告第30号(平成27年3月26日)に基づき信託に残存する親会社株式を、信託における帳簿価格により計上する方法)
- ③ その他有価証券 …………… 時価のあるもの  
期末日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)  
時価のないもの  
移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品の一部(見本品) …………… 総平均法による原価法  
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
- ② 貯蔵品 …………… 最終仕入原価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産 …………… 定額法  
(リース資産を除く)
- ② 無形固定資産 …………… 定額法  
(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。
- ③ リース資産 …………… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (4) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金 …………… 売掛債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金 …………… 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 返品調整引当金 …………… 当期売上の販売製商品が当期末日後に返品されることによって生ずる損失に備えるため、当期末の売上債権を基礎として返品見込額の売買利益相当額を計上しております。

④ 退職給付引当金 …………… 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき退職給付引当金又は前払年金費用を計上しております。  
過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理しております。

(5) 消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(6) 連結納税制度の適用

当事業年度から連結納税制度を適用しております。

(7) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 14,594 百万円

(2) 有形固定資産の減損損失累計額  
減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務

① 短期金銭債権 29,829 百万円

② 短期金銭債務 55 百万円

(4) 親会社株式

投資その他の資産（関係会社株式） 1,624 百万円

## 3. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は、賞与引当金繰入超過額、繰延資産等であり、繰延税金負債の発生の主な原因は、その他有価証券評価差額金、固定資産圧縮積立金等であります。

なお、減損損失及び関係会社株式評価損の否認から発生する繰延税金資産は、評価性引当額により控除しております。

#### 4. 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の 名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	キョーリン製薬 ホールディングス 株式会社	被所有 直接100.0%	資金の貸付	資金の回収	29,800	短期 貸付金	29,800
				資金の貸付 (注) 1	29,800		
親会社の 子会社	キョーリン リメディアオ株式会社	なし	当社の商品 の仕入	医薬品の仕入 (注) 2	16,104	買掛金	3,767

(注) 1. 資金の貸付につきましては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

2. 価格その他の取引条件は、市場実勢を参考に当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。

#### 5. 1株当たり情報に関する注記

- |                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 1,621円43銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 64円 82銭   |